

Barker College 訪問

聖徳学園中学・高等学校 教務部長 峯岸 渉

1 はじめに

2019年9月9日、私立学校教員海外研修団は、6件目の視察先である Barker College を訪問した。

Barker College は、シドニーの北西に位置するワーレンガの近くに 1895 年から現在の場所（91 Pacific Highway Hornsby NSW）にある。

学校の施設は、Junior School (Years Pre K-6) ・Middle School (Years 7-9) ・Senior School (Years 10-12) からなる。

Barker College は、広大な敷地の中で時代の変化に応じた施設をもち、さらに生徒へ最高の環境で学習させるため、拡充プランをたて着実に実行していることを感じた。生徒の希望、自信、能力にこたえることや将来を念頭に置いて構築されている Barker College における教育、生徒に対する考え方を拝聴および視察した。



Barker College 敷地

2 学校概要

Barker College は、英国教会の学校で、さまざまなキリスト教の宗派や他の信仰の生徒を受け入れている全校生徒 2103 名（男子 1747 名、女子 356 名）の私立学校である。

1895 年当初は男子校として設立された。学校は、幼稚園 (Pre K)、初等部 (Years 1-6)、中等部 (Years 7-9)、高等部 (Years 10-12) の一貫教育を行っていて、教育哲学はキリスト教の福音の教訓とキリスト教の教えに基づいている。各生徒にキリスト教信仰をより深く理解する機会を与えるように努めており、教員は生徒にキリスト教の生活を絶え間なく教えることで個人的および職業的資質を高めている。Barker 教育は、学校の枠を越えた生活の準備をすることに焦点をあて形作られていた。2022 年までに完全共学学校となる予定である。



Barker College 敷地

3 教育環境

Barker College では、カリキュラムの開発に学校全体で取り組んでいる。

カリキュラムの素材は、すべての生徒のニーズに応えるために十分な柔軟性を備え、生徒の成長を促すということを優先している。

生徒が中等部および高等部へ進級する際には、豊かで発展性のある思考をもつことを重要視している。

7年生から10年生までのカリキュラムの特徴は、共有された内容と概念を通じて主題を結び付け、それを充実させる探求が単位になっていることである。これらの単位は、Blended Learning 環境で行なわれている。

11年生と12年生ではカリキュラムがより規範的になり、自分が作成した課題や問いへの考え方やスキルセットを使用して課題を解決し、作品を完成させる。その課題や作品は、教科・科目を個別に見るのではなく、教科・科目を横断的につなげ、いろいろな教科の教員が学習のサポートをしていた。

探究に焦点を当てることは、主題に関する知識を過小評価し、明示的な教育の価値を見過ごしていると誤って伝えられることがよくあるが、当校では、アプローチは相互に排他的ではないと考えていた。効果的な探究学習は、生徒が知識を持ち、質問をすることでより深い知識を探究することを

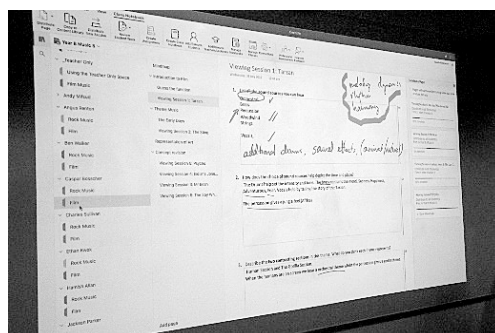
可能とするとし、より深い思考を促進する知識豊富なカリキュラムは、Barker カリキュラムの中心にあった。Barker カリキュラムにおいて探究とは、私たちの周りの世界について疑問を持ち、想像し、質問することを学ぶことである。カリキュラムやシラバスなど、知っておくべきことが伝えられるのを待つ受動的な生徒であるばかりでなく、自分の世界について疑問を抱くような生徒にしたいと考えられていた。

当校では、将来のビジョンの重要な側面に合わせて、学校の戦略計画を促進および支援するため、2014年にBarker 研究所を設立した。

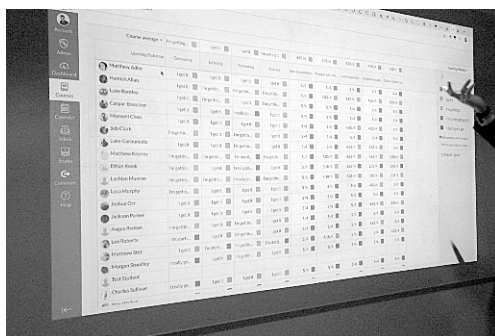
また、生徒は総合的な学習体験に取り組んでいたが、その内容はアカデミック学習、



発問する生徒



課題の配信



課題の分析資料

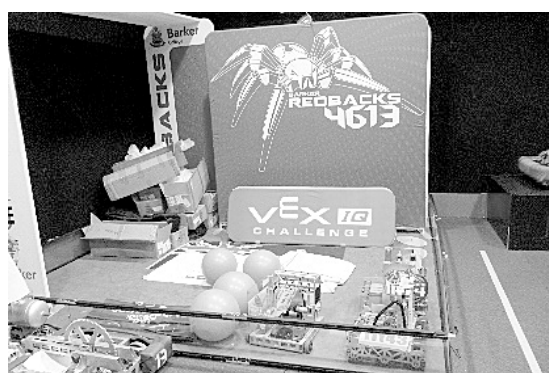
野外教育、サービス学習、コネクトグループ、ハウスシステム、共同カリキュラムプログラム、スポーツ、学生のアカデミックケアとサポートと幅広く組み込まれていた。

4 Barker College のトピックス

Barker College は、他の高校のプログラムでは修得できないスキルを生徒に与え、コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップを指導し、技術的、ビジネス的、芸術的等分野を問わず、生徒は楽しみながら情熱を傾け追求していた。

中でも、競争力のある人間になるための必要な基礎を身に付けるため、ロボットの設計、プロトタイピング、基礎の構築、およびテストを含むエンジニアリングプロセスを体験する活動は、当校の特色というべき点である。

ロボティクスに参加する生徒を対象に、チームを組んで一緒に作業をするための専用のロボティクスセンターが形成されている。やりがいのある充実したプログラムを通じて、生徒の創造的で知的な能力を最大限に引き出し、生徒たちが常に挑戦し、考えもしなかったことを行うスキルと自信を持つようにしていた。



ロボット開発

Barker College のロボティクスプログラムは世界からも多くの注目を集めている。世界で 4 つある地域大会で優勝した唯一のチームもあり、現在、世界のロボティクスチームのトップ 10 に入っている。

このプログラムに参加しているのは、これまでのスキルに関係なく、好奇心、熱意、学習意欲の高い生徒たちである。トレーニングやサポートおよびガイダンスは、学校の技術スタッフ、教師、および業界の人たちが担っている。

生徒は、科学と工学のインターンシップと雇用機会を追求することに高い関心を示し、チームは戦略を立てて、最も効率的かつ効果的な方法でゲームをすることのできるロボットを作り上げる。生徒は、その過程でリーダーシップ、チームワーク、コミュニケーションスキルを学んでいる。



チャンピオンフラッグ

5 おわりに

視察をさせていただいた Barker College は、私立学校で幼小中高が一つの敷地にある自校と同じスタイルであった。そこで行われている一貫教育を見学できたことはとても刺激的な時間であった。

当校到着後、事務室の受付では、来訪者への来校シール貼付によるチェックインが行われており、公立学校視察と比べ嚴重なものであった。

広大な敷地のなかにそれぞれの学年が入る校舎や共有する施設などがあり、とても充実していた。空間の使い方が非常に上手く、生徒の自主的な学びを促すように配されていると感じた。

初等のエリアでは生徒の活動を掲示することによってやる気を与え、中等・高等のエリアでは問いかけるような掲示で学習意欲を沸きあがらせる効果をもたせていた。

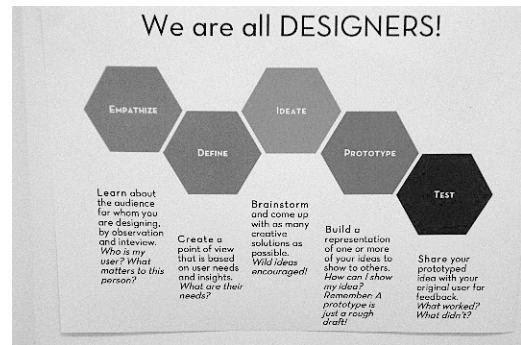
生徒にはマーキングガイドラインが送信されていて、自分が作成した課題や問いに対する考え方を確認し、いろいろな方向から問題解決に向け自ら進んで取り組んでいる印象を受けた。



教員ミーティング



初等の掲示



中・高等の掲示

視察の中で、教員のミーティングに参加させていただいた。校長の挨拶から始まり、連絡事項の発表があり、流れるには日本の学校と変わりはないが、特に顕著な取組をした教員に校長から一枚のチョコレートが渡されるなど、アットホームな教員同士の雰囲気を感じることができた。

参考 : Barker College <https://www.barker.college/>